

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4572200170		
法人名	有限会社日豊福祉サービス		
事業所名	グループホーム高千穂		
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井3258番2 (電話) 0982-73-1878		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年8月20日	評価確定日	平成21年9月29日

【情報提供票より】 (平成21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年6月14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤0人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(平成21年7月15日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	3	要介護2	5
要介護3	6	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 87.5 歳	最低 79 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤医院、高千穂町国民健康保険病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>周囲は緑が多く自然豊かで、安らぎを感じるホームである。すぐ近くには夜間救急対応のできる町立病院があり、医療面での支援が受けられる環境にある。職員の人間関係は良好で仲良く、明るい笑顔でやさしい対応をしていることがうかがえる事業所である。「ゆっくり 一緒に 楽しく」という簡潔明りょうなスローガンを掲げ、利用者に寄り添ったケアに取り組み、利用者は笑顔でおだやかに生活している。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>重度化について全体会議などで勉強会を行い、家族とも話し合い方針を共有している。終末期に向けたケアについては検討中である。栄養摂取や水分確保については、献立を外部の専門機関に依頼し、参考にしている。食事摂取量や水分摂取量の記録のあり方の工夫がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で話し合い、自己評価に取り組みサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果を全体会議で報告し、勉強会を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に会議が開催され、ホームの現状や経過報告、外部評価の結果を報告し、改善に向けての話し合いが行われ、そこでの意見をサービスの質の向上に生かしている。ホーム便りで運営推進会議の内容を報告している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的にホーム便りを発行し、ホームでの様子を知らせている。利用料を持参してもらうことで、家族の来訪する機会を作っている。来訪時や電話連絡時には、気軽に話しやすい雰囲気を作り、意見や苦情を出しやすくするような配慮を心がけている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の掃除にボランティアとして参加するなど、近隣地域とのふれあいを大切にし、自治会への加入に向けて地域への働きかけを行っている。近隣の公民館長や民生委員が運営推進会議のメンバーになり、意見交換ができています。地域消防団・役場救命隊の協力の下避難訓練を行ったり、地元中学生の体験学習の受け入れなど地域との連携に努めている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を簡潔明りょうにし、スローガンとしている。より地域密着型の理念となるよう検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、「ゆっくり 一緒に 楽しく」というスローガンを共有し、実践に向けて日々利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入に向けて地域に働きかけを行ったり、職員が地域の清掃にボランティアとして参加している。中学生の体験学習の受け入れ、地域行事への参加、地域消防団や役場救命隊と共同で避難訓練を行なうなど、地域との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員の意見を取り入れて作成している。外部評価結果を全体会議で報告し、勉強会を行い、評価を生かして具体的な改善に取り組んでいる。運営推進会議やホーム便りでも報告されている。	○	自己評価の意義を更に理解し、記述の方法を検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、ホームの現状や経過報告、外部評価の報告をし、そこでの意見をサービス向上に活かしている。会議のメンバーに近隣の公民館長や民生委員の参加があり、地域の方との交流の機会にもなっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題点や疑問点をそのつど相談したり、意見・指示をもらえる関係にあり、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを発行するとともに、利用者個々に合わせた報告をしている。家族の来訪時や電話連絡時にも話す機会を作り報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料を持参してもらい、来訪の機会を設け、家族等が意見、不満、苦情を話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族の意見を運営に反映させるために、家族会の開催回数を増やすことを検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階と2階の職員は、日常的に利用者と交流があり、異動による利用者へのダメージは少ない。新しく職員を採用する場合も、利用者のダメージを防ぐ配慮がされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務内で研修に参加し、全体会議の場で研修報告が行なわれ、職員全員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北のグループホーム連絡協議会や地域の同業者との研修会に参加するなど交流の機会があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族にホームで過ごしていただき、他の利用者や職員、場の雰囲気になじめるような機会を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、職員と利用者とともに寄り添う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の思いや意向の把握に努め、困難な場合は、本人本位に検討している。不穏時や帰宅願望が強い方にも適切な対応がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は計画作成担当者にそのつど利用者の状況を報告し、本人や家族、必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6か月ごとに見直しを行なっているが、変化に応じて、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ふるさと巡りを企画し、利用者一人ひとりの家やなじみの場所を訪ねている。定期的な掛かりつけ医や協力医療機関への受診支援、県外の医療機関への受診支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族とも相談しながら、掛かりつけ医や専門医の受診を支援し、医療機関との連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居条件を変更し、重度化についての勉強会や話し合いを行い、家族とも方針を共有できている。電動ベッドを配置し対応している。終末期のあり方については検討中で、掛かりつけ医との話し合いを行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保は職員間で徹底され、言葉かけやさりげない対応を心がけている。記録等の個人情報の取り扱いも徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助の声かけや対応にもさりげない配慮がされ、職員と利用者が一緒に楽しんで食事をしている様子がうかがわれた。準備や後片づけもできる範囲で参加されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の流れで入浴時間は設定してあるが、それにとられず本人の体調や希望により、一日を通して入浴を楽しめるような支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片づけ・洗濯物たたみなどの家事や趣味を生かした作品作りなど、一人ひとりの生活歴や能力を生かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて、散歩やドライブに出かけられるよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関の鍵をかけないケアに取り組んでいる。家族の了解の下、2階は安全の確保のため止むを得ない場合に鍵をかけることがある。体制の強化を検討中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主避難訓練や、地元消防団・救命救急隊との合同避難訓練を行なっている。職員・家族・地区の方の連絡網があり、協力を得られるよう働きかけている。警備保障への通報装置が設置してありスプリンクラー設置を申請中である。	○	災害対策マニュアルをファイルし話し合いはされているが、ホーム独自の災害対策マニュアルを作成していただきたい。夜間の職員体制からも、夜間対応の避難訓練を取り入れていただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	県栄養士会に相談し、高齢者用の献立を作成していただき、参考にして調理を行なっている。食事摂取量や水分摂取量をチェック表に記録し、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は生活感があり、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫がされている。利用者の作品展示にも配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や遺影、なじみの家具や小物が置いてあり、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。